時事新報

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

第二千六百五十二號　明治廿三年五月十二日　月曜日
舊暦庚寅三月廿四日　(癸、巳)
日出午前四時四十分　日入午後六時三十五分
月出午前一時零分　月入午後十一時三十五分
滿潮午前十一時四十七分　滿潮午後十一時二十三分
(西暦一千八百九十年)

時事新報定價

時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓

〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十二錢	十一錢	十錢五厘

月曜日幷に大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合には新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に貼用する郵便印紙の代價を申受く可し

時事新報

商業上の焦點、白耳義の事例

日本を商業國と見做して結局の目的は何れに在りや直に東洋貿易の中心たらしめんと欲するに在るあり凡そ一國を以て世界貿易の中心と爲さんとすれば勿論、その一方面の中心たらしめんとするにも自國に多くの船舶を備へて此中心點より四方に派出し往くに我が産物を載せて返るに他の物品を積み或は他の物産を他より他に運送販賣して往復間斷なき共圓に周圍の貨物を中心ゝ引き寄せ聚散共に此中心點を經過するやうの勢を成さしめざる可らず又此中心市場には金力ゝ富み智力に勝れ規模廣大なる商人ありて四方遠隔の場所ゝ手を廣げ大仕掛の商賣を一手ゝ握りて凡そ其方面内に賣買する商品は必ず一旦その手を經りて多少の口錢を收めされは之を其消費者に渡さゝるやうの習慣を作らざる可らず是れ第一には地理の便なるに因り第二には人工の致れるゝ因りて其勢を成さしめ又其習慣を作らしむべき者にして例へば彼の白耳義國が南北亞米利加、西印度其他の殖民地より歐洲に來る各種物産の輻輳地と爲り此一方面に向て宛然貿易の中心たるは決して偶然の事に非ず抑も同國アントウアープ港は和蘭のアムステルダム港と相並んで夙に貿易たる可きの形相を具へしかばナポレオン第一世も該港を以て歐洲貿易の中心と爲すの意ありしものゝ如く當時ナポレオンの計畫に係る同港船渠事業の遺物は今猶は港内に存すと云ふ然るに此白耳義國は千八百三十年獨立の師を起して和蘭と分離し日耳曼一州の公子を迎へ立てゝ國王と爲したる者即ちレオポルド一世なり一世既に崩じて今は第二世の治世あれども國小にして佛獨兩大國の間に夾り共武を以て振ふ能はざるを知りて專はら商政を整理することを勤め一世レオポルトの施設計畫せし所、見る可きもの少なからず又當國貿易の事も小國を以て競爭す可らざるもの は輕商業あるのみと覺悟し其地理の歐洲各國商品通過の中心に位するを利用して大に其交通貿易を擴張し彼のアントウアープ港の如き其人工を究極して如何ある大船巨舶にても一番の岸に横附けにすべく又ウェットドックと唱へて一に汐潮の干滿に關ら船の倉庫を上下せざるやう一には船中の諸貨物を倉庫に移すに便あるやう廣大なる池の如き船渠を作り水壓力を以て其閘門を開閉し海岸にても船を渠中に引き入るれば船渠を環りて倉庫を建て置き起重機は鐵路を渡りて船側に來り船中の貨物を引き上げて之を荷物列車に積めば列車は分れて鐵線と爲り或は倉庫中の各處に至りて又各器械力に因り天上六七階目に押し上げらるゝもあり或は列車に載せたる儘、歐洲大陸の各地を指して汽笛一聲出發するもあり倉庫の近傍に至りて見れば咖啡、砂糖、綿等を始め大俵は積んで山を爲し小包は累々として道を遮り其盛況言はん方なし斯くの如く入港の船舶に對し又其貨物の取扱に關して非常の便利を極むるのみならず當國ゝて鐵道の運賃を廉にし白耳義國の鐵道に因りて歐洲大陸各地ゝ入るは最も割合好き者なりとの評判を得せしめ又入港料を廢して各國商船の來港を便にし穀物には輸入税を課せず其他一切の關税を低くして殖民地物産の周轉港たらしめんとせり蓋し運賃、關税、入港税等の如き何れも商品の原價に加算す可き者ゝして其多少は自から賣買上の損益に關するが故に此等の諸費目少なき場所には商人好んで買入を爲し又倉入を爲すとにして自然商業の中心場と爲るは固より怪しむに足らざるなり左れば千八百八十七年彼の白耳義國の貿易上二億九千五百萬圓は通過商品ありと云ふ此通過商品とは同國に産しさるものに非ず又需用するものにも非ず唯同國が地理と云ひ人工と云ひ歐洲各地に商品を出入するに最も便利なるを以て道を此に假りて通過するものにして正味同國に關係なき者なれども兎に角三億近くの商品が國中を通行するゝとあれば鐵道運賃に倉敷料に其他之を取扱ふ商人の手數料並に稅關の手數料等として國の潤たらさるものなし凡そ一國の消費には限りあり其生産にも亦限りあり限りあるの消費生産のみを目的とし輸入するものは自國消費品に止まり輸出するものは自國の生産のみに止まる間は眞の貿易と云ふ可らず外國の物産を取扱ふて其間に利益を占むる是れぞ眞正の商業なる可し白耳義國の官民は能く此邊を確認して地理を利し人工を極め今日の勢を成さしめたる者にして近年獨逸の勃興するや亦此に見る所ありヘンボルグ港を以て所謂中心場と爲しアントウアープ及びアムステルダム等の商賣を奪ひ去らんとして大に盡力するものゝ如くあれども關税、倉敷、入港税若くは鐵道運賃の如き商人を引き寄するの便利に於て人力の行き届きたると俄に白耳義等に及ぶ可きに非ず蓋し彼れは單政略ゝして傍、商業に注意するに過ぎざれども是れは商業國にして商業一方を重んずるが故ならん左れば貿易の中心たるは地理の利、固より大切なれども商業立國と覺悟して金圓の注意を一點に集め環來の事にも工風を凝らし遠く人工の到る處を盡し商賣人の實利計算の上よりして自然に輻輳し來るやうの準備を爲すこと最も所要の事なる可し

雜報

〇村田元老院議官の民法註釋　今般發布の民法は新作の文句少なからず且日本に未曾有の法典なれば世間一般に其解釋に苦む所あるより議官村田保氏は來月中旬迄を期し先つ民法財産編の部を註釋せんとの企てある由皆は豫約者の外餘分のものは一冊も作らざるやにて當月三十日を限り所望者を募り實價を以て之を分つと云ふ元來同氏は刑法治罪法の審査委員と爲り今回は又法律取調委員と爲りて親しく其原案を討議したる事あれば今度の註釋にも委員會の決議を參酌して確實なる釋義を下す由に聞けり立法者即ち註釋者となれば殆んど伊藤伯の憲法義解と均しく世人の疑ひを解く完全の註釋出るならんと今より待設ける人々も多しと云へり

〇今年の地方　運輸交通の便利に由るか、中央集權の餘弊に出づるか、地方の富の東京に吸收せらるゝ事實は統計上に於て爭ふ可らず之を人體に喩ふれば腦充血病に罹れるものにして經世家の齋ゝ關心して措かざる所なるが殊に本年の如きは第三回勸業博覽會の開設ありて地方人の出京する者夥しく府下の營業は潤ふべき理あれども此等の人々は宿料のみか衣服諸雜具等都て東京にて買入るゝが故に地方商店の寂寥たるみと寃がら門前雀羅を張るの觀あるよし且つ又來る七月には衆議院議員の選擧あるとなれば今の政黨派の折柄百事を忘れて奔走し其餘波延いて實業世界に及ぶべし離て議院の開くるに至らば又もや地方人の出京を促がし富を都會ゝ集むべし今年は實に地方の厄年とも申すべくして此上氣候不順となり農作に災害を加ふるともあらば如何ある慘狀に陷るべきや知る可からず蓋し氣候は天然にして能く之を防ぐに由なけれども他の選擧騷ぎ等に於ては人々の心得如何にあるべし兎に角主として自衞の道を務め猶は益々みれを擴張して地方自治は名實ともに地方自治たらしめ追て腦充血を療治するの工風ふそ肝要ならん事の甚だ切迫するに及んで始めて不平を鳴らすに於ては吾も亦罪を分たざるを得ざるべしと云へり

〇大日本農會　の第九回大集會を一昨十日午前九時より京橋區木挽町厚生館に開きたり抑其順序は兼て本紙ゝ記せし如くあるが明治十四年設立以來の盛會にして各地方の會員も殊に多く階上階下共に立錐の餘地なく會員の内太田金十郎、久保田正偵、稻葉源太郎、福井菊太郎、出奈宗具、岡田良一郎氏等が臨時の演説あり閉會を告けしは午後六時三十分頃にして當日は會頭北白川宮殿下を始め二三大臣の臨席ありし而して殿下の告辭岩村農商務大臣の祝辭は左の如し

會頭殿下の告辭

本會は明治十四年の設立に係り實に本邦農談會先進の地位に居れり即ち本會を組成せる各員にして萬んぞ農業の先達者たらざるを得んや顧ふに事業の前途尚遠し今玆に第九回の大集會に當り會員諸子に臨む益々奮て本邦農事の盛運を贊助せんことを

岩村農商務大臣の祝辭

本會創立以來殆と十年を閲し會員の全國に散在するもの常に數千を以て算ふるのみならず地方農事の改良を說くもの年一年より多しと聞く今や益々斯團體を利用して確實の實を我全國に普及する乃ち本會の目的とす へき所なるべし玆に第九回大集會に際し一言を述べ以て諸子の盡瘁を望む

〇常備艦隊の解纜　過日神戸より横濱に入港したる我國常備艦隊なる扶桑は横須賀へ向け一昨十日午前七時十九分髙城、高千穗は同九時品川へ向け孰れも横濱を出帆したるよし

〇藤井陸地測量部長　陸地測量部長工兵大佐藤井包總氏は第三、第四、第五、第六、師團管下測量地檢分のため須磨工兵大尉を隨へ一昨十日出發したるよし

〇別役工兵監　工……第三及第四隊臨時……京したりと

〇大日本農會員票……決議を以て會員票……常の三種に別ち名……つ其れとはあしに……央を太陽に見立て……にして其形前者と……委員は紫色、特別……て其巾は均しく五……通常のものは四十……選會の際之を返納……て殘餘の金額を返……

〇本業試驗　陸軍……閘、砲、工、輜重の……

〇貴族院互撰者の……十五名は互撰の際……過日郡部の人々よ……宜を睹る事を懇親……原氏は大に之れを……親會を開くまし

〇芝區公民協同會……に開き來る廿一……及び幹事の改選と……

〇醫術開業試驗……執行せり即ち昨今……する等にて其問題……內科學(五月十日……第一問　傳染病……第二問　結核性……第三問　氣管支……

〇大島公使の次……る私信の末に小田……わり生も其選に就……

次春……又……不開……窓放……副客何須故……

〇東京府會の……大手倉者等を云ふにも……地の漆をども心し……(家の名)と稱し府……工の業に供ふるも……の中ゝ投入し……にして其用を爲ふ……

〇横須賀の……あゝみえし……最出せし……此程大集會を……縣知事に……見を述べし……しなり

〇東西新聞の……賣り廣告するよ……